

滋賀県介護のイメージアップ施策検討部会現地調査結果

- 日時 令和元年(2019年)11月17日(日) 10:30~15:30
- 場所 イオンモール鈴鹿(三重県鈴鹿市庄野羽山四丁目1-2)
- 出席者 東副部長、河岸委員、澤村委員、山路さん、事務局(今井)
- 調査事項 みえ介護フェア2019の開催状況の現地調査
 - 10:30~ オープニング(フェアの説明)
 - 10:40~ 健康測定コーナー(三重県看護協会:骨密度、血圧、血管年齢)
 - 介護職の展示&試食コーナー(キューピー株式会社)
 - 介護ロボット体験コーナー(三重県老人福祉施設協会:マッスルスーツ、見守り支援システム)
 - 福祉機器の展示&体験コーナー(近鉄スマイルライフ(株))
 - レクリエーション機器展示(みえテクノエイドセンター)



13:00～ 聞取調査

(三重県福祉人材センター)

(三重県医療保険部長寿介護課)

- 当フェアは平成30年度から実施している。これまで各団体において実施していた魅力発信事業をひとまとめにするということで、介護の連携会議で事業化されたもの。フェアの各種催しは、基本的に既存の事業である。
- フェアの趣旨は介護そのものに興味をもってもらうため、介護を身近に感じてもらいたい。人材確保の目的もないわけではないが、滋賀県のような部会をもつての出発ではないので、その趣旨は薄いかもしれない。
- こうしたこともあり、事業の成果とその後の効果を測ることは難しい。来客数や当日アンケートの集計に止まっているのが現状。
- ターゲットは一般住民で、特に若い方や関係者以外の方に来てほしい。市内の参加が多い。
- フェアの主催は県（県社協人材センターに委託）。講演、上映会、会場の範囲を県で負担し、ステージ・ブースでの催しは協力で成り立っている。
- 広報は県内にはもちろん、開催地の関係団体（市、自治会、学校、市社協）に後援として周知してもらっているほか、費用を使って新聞広告も実施。
- ゲスト講師はフェアの開催日にスケジュールの合う著名人を選考。全国で介護の日のイベントをやっているので、介護に関連する特定の方を呼ぼうとするので埋まっているのでそういう選び方になる。
- 当日のイベント全体の運営が県社協にはなかなか難しいので、イベントのまとまり感やブース間の連動は課題がある。
- 映画上映会（定員350人）と講演会（定員400人）は満員で、映画は募集から2週間程度で満員となった。映画は経費を使ってドリンク・ポップコーン付きにしたのも良かったかもしれない。ただし、先着順にしたためチラシの届くタイミングによって既に満員で応募できない方がおられたので、募集期間を決めるか抽選にすればよかった。
- 介護技術デモンストレーションについて、昨年度は介護技術コンテストの決勝をフェアの中で実施した。見ている一般の方は審査項目を知らず、何がすごいかわかりにくかったので、今回はコンテストとは別にして、コンテストの上位者に解説付きで披露してもらおう。
- イオンでの開催は、イオンリテールから三重県庁への出向者（連携協定）を通じて申込み。イオンモールのテナント店舗には協力依頼していない。イオンモール（もしくはイオンリテール）もテナント店舗に指示できる立場ではない。そのあたりはイオンモールによっても違うかもしれない。

13:40～ シネマロビー（障がい者スポーツボッチャ、メッセージツリー）

14:00～ ビンゴ大会

14:50～ 介護技術デモンストレーション



15:30 調査終了

以上